

入賞者 90人が決定

問い合わせは
文化国際課 ☎898-5825



昨年の贈呈式

入賞者への贈呈式と入賞作品の朗読会を実施します。

- 第13回若い芽のポエム贈呈式
日時=11月14日(土)午後1時~1時40分
会場=前橋テルサ
- 朗読会
日時=11月14日(土)午後1時40分~3時30分
会場=前橋テルサ
内容=入賞者と選考委員・推薦委員の詩の朗読

「第13回詩のまち前橋若い芽のポエム」の選考委員会が行われ、2万2,226編の応募の中から入賞作品が決まりました。ここでは、小学生、中学生、高校生の3部門で最優秀賞の美棹賞を受賞した作品と入賞者を紹介。なお、賞の贈呈式と朗読会は、11月14日(土)に前橋テルサで行います。

海外からの応募も

「詩のまち前橋若い芽のポエム」は全国の小学生から高校生を対象にした詩のコンクール。本年度も、国内はもとより海外2カ国(タイ・インドネシア)からも多くの応募があり、全体的な作品のレベルはさらに向上しました。

入賞者は90人

入賞作品は、3部門で90編。各部門の入賞者は次のとおりです。

敬称略

●小学生の部

美棹賞(金賞) 江川周(東京都中野区立鷺宮小5年)
銀賞 石邑紗雪(桃川小6年)
銅賞 高澤駿斗(元総社北小3年)

佳作 12人

入選 35人

●中学生の部

美棹賞(金賞) 原澤彩季(一中3年)
銀賞 藤井香里(三中1年)

銅賞 大島芽依(五中3年)

佳作 7人

入選 21人

●高校生の部

美棹賞(金賞) 春山綾奈(高崎健康福祉大高崎高3年)
銀賞 尾谷美紀穂(神奈川県立相模原高3年)
銅賞 薛沙耶伽(福岡県私立雙葉高3年)

佳作 2人

入選 4人

菊田委員長の講評(要旨)

ことしの作品は、感覚的に優れた作品が多かったです。頭で考えて書くのではなく、自分で見て、触って、感じて、変換しみました。

匂いをかいて作品を書いていると感じました。表現がとて豊かで、温かい作品が多かったと思います。その反面、家庭的な作品が少なくなってきたいて、「自立する自分」というものが詩の中に多く見受けられました。これは社会的な核家族化が表れているのではないかと思います。

全体の中でも、特に小学生の作品は非常に自由に書かれているものが多く、今後が大変楽しみです。



小学生の部
江川 周さん
東京都中野区立鷺宮小5年

自分

自分の中に自分があることによって、自分の心の中でけんかがおきる

勉強中…

本へ

マンガへ

テレビへ

色々な誘惑につられて…

そんな自分と いつもけんかしている

なぜ、自分とけんかしなければいけないのか?

なぜ、自分が二人もいるのか?

不思議でたまらない

でも、心配なことがあった時

心がきず付いた時

自分と相談して 自分を元気づけてくれる

自分は 自分とけんかすることで成長していく



中学生の部
原澤 彩季さん
一中3年

急行きたぐに

背すじがこわばるほど うれしい寒さ
青や白の板が掲げてある長岡駅のホームに
ごうごうと重い音をたてて
入ってきた 急行きたぐに

オレンジのかたい戸 やわらかい暖房
番棚のせまそうなベッドたち

この布団の匂いは 煙草だろうか
汗だろうか 売店のスポーツ新聞だろうか
小さな小さな窓 朝には何が見えるだろうか
ひりひり光る蛍光灯 夜とおしつけようか

真夜中に 急行きたぐには 進む進む
本来なら寝ているだろう 眠れない
窓でものぞいてみようか

目の前を 大量の光が高速で横切った
どこかの駅を通過したらしい

また暗くなり 静まり返る
ガガン コゴン ガガン スコー
そろそろ寝よう 明日起きられるだろうか

窓から見える景色が明るくなっている
そして 町中になついている
とうとう夜を越した 急行きたぐに

車内をきりきりと鉄道唱歌が流れる
乗っている人が起きたり 支度をしている

さあ大阪についた 朝の駅
空気が新鮮で 車両の出入りが激しい
ざわざわとしたホームに出て
急行きたぐにを見る

人の声と電子音とモーター音の中で
急行きたぐには静かに 前照灯を消した



高校生の部
春山 綾奈さん
高崎健康福祉大高崎高3年

空おぼれ

先生は言った
空が青いのは
光が散乱するからである

真っすぐに差し込む
太陽の光の粒が
空気の粒にぶつかって
ばらばらに散るのを
私は思い浮かべる

窓の外を見れば
吸い込まれるような蒼天

嗚呼

この青は
造られた青なのか

知らなかったことを知った
うれしさと一緒に
小さな寂しさを感じた

あと少しだけ
知らないふりをしよう

未知だからこそ
美しいものもあるのだ